広島女学院大学論集　第71集
Bulletin of Hiroshima Jogakuin University ***71****: 1–20, Feb. 2024*

「個別最適な学び」への動機づけを促進する教師の実践の考察

――生涯にわたる自律的な学び手の育成を目指して――

中島　義和

（2023年10月10日　受理）

A Study of Teacher Practices that Promote Students' Motivation to "Individualized Optimal Learning"

――Toward the Development of Autonomous Lifelong Learners――

Yoshikazu NAKASHIMA

Abstract

This paper reports on a teacher's practice and discusses promoting students' motivation for "individualized optimal learning" in English grammar, with the aim of developing autonomous learners as practitioners of lifelong learning. Specifically, the teacher's practices include: (1) using movies as class materials, (2) providing quizzes and immediate feedback of their results using Google Classroom, (3) assigning reaction papers in which students freely write about their own learning and questions, (4) giving feedback with comments on each person's reaction paper, and (5) sharing highly rated reaction papers with the entire class. The results of the reaction and reflection papers suggest that these practices may have had an effect or contributed to the promotion of students' motivation toward "individualized optimal learning."

Keywords: individualized optimal learning　個別最適な学び，motivation　動機づけ，autonomous learners　自律した学習者，lifelong learning　生涯学習

1. は　じ　め　に

2020年度の小学校を皮切りに，中学校，高等学校と順次，新学習指導要領に基づいた教育が実施となった。小学校での新学習指導要領全面実施となった2020年度，同年度の2021年１月26日，中央教育審議会（2021a）は，『「令和の日本型学校教育」の構築を目指して～全ての子供たちの可能性を引き出す，個別最適な学びと，協働的な学びの実現～（答申）』を示した。

その要点を溝上（2021）は，「新型コロナウイルスの感染拡大により露呈した，とくにSociety5.0に向けてのICT活用をいっそう充実させるため，そして，これまで課題となっていて十分に取り組めていない問題（子供たちの多様化，教師の長時間勤務による疲弊，少子高齢化・人口減少等）を整理し併せて解決を図るため，新学習指導要領を着実に実施しつつ，2020年代を通じて『令和の日本型学校教育』を実現する」と整理した。同答申（2021a）では，2020年代を通じて実現すべき「令和の日本型学校教育」の姿の中で，「自立」，「協働」，「創造」の3つの方向性を実現させるための生涯学習社会の構築を目指すという理念を踏まえ，諸問題に取り組むことの必要性を説き，その取組を通じて，児童生徒一人一人が，自分のよさや可能性を認識するとともに，あらゆる他者を価値のある存在として尊重し，多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え，豊かな人生を切り拓き，持続可能な社会の創り手となることができるよう，その資質・能力の育成を求めている。

溝上（2021）は，「令和の日本型学校教育」の中核概念は「個別最適な学び」であるとしている。これは，「個に応じた指導」を学習者の視点から整理した用語とされ，これまで通りの単なる「個に応じた指導」ではなく，現代課題としてのGIGAスクール構想（2020年4月に始動した，児童生徒向けの1人1台端末と，高速大容量の通信ネットワークを一体的に整備すること）を踏まえたICT活用を加え，学習指導要領で「主体的・対話的で深い学び」の実施を求めているので，それに加えての「個別最適な学び」であると釘も刺しているとしている。「個別最適な学び」は日本の学校教育が長年取り組んできた「個に応じた指導」にも対応するものであり，それ自体は決して新しい学びの提起ではないと説明される。そして，個別最適な学びが孤立した学びに陥らないよう「協働的な学び」が加えられ，連動すべきものとされる。

この「個別最適な学び」に関して，中央教育審議会の答申【概要】のスライド2（2021b）に示された内容を，溝上（2021）は，以下のように整理している。

「個別最適な学び」
○「個に応じた指導」（指導の個別化と学習の個性化）を学習者の視点から整理した概念。
○新学習指導要領では，「個に応じた指導」を一層重視し，指導方法や指導体制の工夫改善により，「個に応じた指導」の充実を図るとともに，コンピュータや情報通信ネットワークなどの情報手段を活用するために必要な環境を整えることが示されており，これらを適切に活用した学習活動の充実を図ることが必要。
○GIGAスクール構想の実現による新たなICT環境の活用，少人数によるきめ細かな指導体制の整備を進め，「個に応じた指導」を充実していくことが重要。
○その際，「主体的・対話的で深い学び」を実現し，学びの動機付けや幅広い資質・能力の

育成に向けた効果的な取組を展開し，個々の家庭の経済事情等に左右されることなく，子供たちに必要な力を育む。

（『令和の日本型学校教育答申』，【概要】スライド２）

中央教育審議会（2021a）の答申で「令和の日本型学校教育」において目指す子供の学びの姿として示されている内容を通して，「指導の個別化」と「学習の個別化」の詳細を理解することができる。

「指導の個別化」は，全ての子供に基礎的・基本的な知識・技能を確実に習得させ，思考力・判断力・表現力等や，自ら学習を調整しながら粘り強く学習に取り組む態度等を育成するためには，教師が支援の必要な子供により重点的な指導を行うことなどで効果的な指導を実現することや，子供一人一人の特性や学習進度，学習到達度等に応じ，指導方法・教材や学習時間等の柔軟な提供・設定を行うことなどであるとされている。

また，「学習の個別化」は，基礎的・基本的な知識・技能等や，言語能力，情報活用能力，問題発見・解決能力等の学習の基盤となる資質・能力等を土台として，幼児期からの様々な場を通じての体験活動から得た子供の興味・関心・キャリア形成の方向性等に応じ，探究において課題の設定，情報の収集，整理・分析，まとめ・表現を行う等，教師が子供一人一人に応じた学習活動や学習課題に取り組む機会を提供することで，子供自身が，学習が最適となるよう調整することであるとされている。

前述の通り，これらの「指導の個別化」と「学習の個性化」を教師視点から整理した概念が「個に応じた指導」であり，この「個に応じた指導」を学習者視点から整理した概念が「個別最適な学び」である。授業の中で「個別最適な学び」の成果を「協働的な学び」に生かし，さらにその成果を「個別最適な学び」に還元するなど，「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実し，「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善につなげていくことの必要性もあわせて示されており，本研究で扱う「個別最適な学び」の成果が，授業での「協働的な学び」の創出に活かされることも期待した。

さらに，文部科学省初等中等教育局教育課程課（2021）による「学習指導要領の趣旨の実現に向けた個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実に関する参考資料（令和３年３月版）」においても，ICT 機器を活用した，「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実について，詳述されている。これらの学びがより良い形で連携すれば，「主体的・対話的な深い学び」の創出にも相乗的な効果が発揮される。例えば，個別具体的な学びで知識や技能を習得し，リサーチ学習等で思考の深化を行うといった「個別最適な学び」での成果を活用し，他者とのディスカッション，協働的な課題解決活動，プレゼンテーションや対話型リフレクションといっ

た「協働的な学び」を生み出す過程を反復的に往還することなどが考えられる。自身が持つ知識や創り出す考えをインプットしながら，他者にその考えを発信することでアウトプットを行い，インプットとアウトプットの学びを反復することで，新たな学びや気づきを獲得するというサイクルが生じ，より深い学びへと誘うことになる。

本研究では，これらの背景や考え方を参照し，教師の視点としての「個に応じた指導」の提供が学習（修）者である学生の視点としての「個別最適な学び」の創出にどのように貢献したかに焦点化したい。その前提に立ち，学生が学びを生涯にわたって自ら創り出す主体，すなわち主体的に生涯学習を創出し，継続的に実践する自律的な学習（修）者となることを期待すべく，学生の視点に焦点を当て，その視点での学びを検討することから「個別最適な学び」の表現を用いることとする。

2. 問 題 と 目 的

筆者は，授業デザインの方針として，学習者の「実態とニーズ」を把握し，できる限りそこに寄り添うことを心がけている。そのため，初めて担当する学生への実態調査を実施している。本研究においても受講学生に質問紙での実態調査を実施した。研究対象となる授業は，「英文法Ⅱ」で受講者の大半は英語を主専攻とする１年生，一部２年生以上の再履修者および他コース・他学科（すべてを英語で行うコースや児童教育の学科）の学生となっている。

質問紙調査によると，その受講学生のおよそ半数が，英語を「少し苦手」「とても苦手」と回答した（図１）。しかし，好きか嫌いかを尋ねるとその度合いに差はあるにせよ，70％程度が「好き」と回答した（図２）。英文法学習への印象としては，楽しさを感じる学生が40％程度，苦痛を感じる学生が30％程度となっている（図３）。また，英語の映画視聴に関しては，「よく観る」「たまに観る」が６割ほどで，その７割が英語音声・日本語字幕，英語音声のみは０という結果が得られた（図４）。

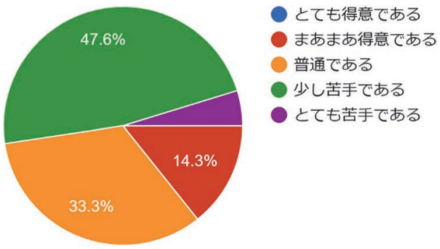


図１　英語の得意・不得意の状況

筆者はこのような実態をとらえ，英語への苦手意識を持っている学生が多い中で，個人の意識を少しでも変え，英語学習を好意的に捉え，取り組む方向へと「動機づけ」を促進する手立てはないかと考えた。その課題を解決すべく，英文法の授業における課題の工夫を構想し，実践することにした。「動機づけ」は外国語学習との親和性が高く，白井（2012）は，「どういうタスクだったら動機づけは高まるのか，そういった，学習活動に関連したものも見ていかなけ

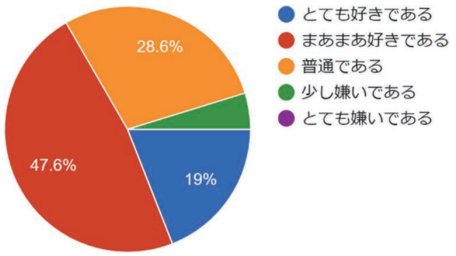


図２　英語の好き・嫌いの状況

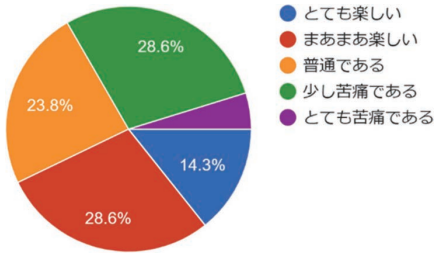


図３　英文法学習への印象

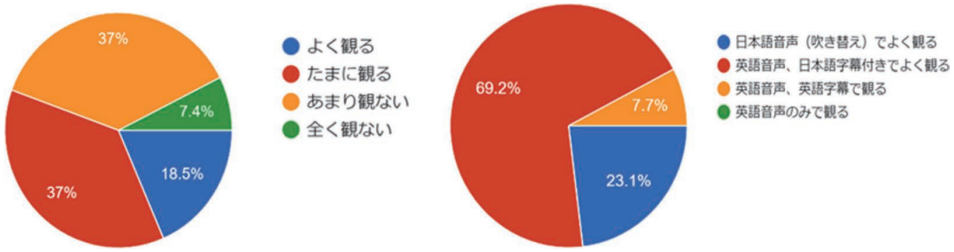


図４　英語の映画の視聴頻度・音声字幕状況

ればならないだろう」という task motivation について述べている。本研究においては，そのような動機づけを高めるタスクの実践と研究成果を報告する。

3. 授 業 の 概 要

(1) 授業の構成

第１回：ガイダンス

第２回～第13回：映画を活用した授業

※題材は『TITANIC』，テキストは角山・Simon（2016）を使用

第14回：期末試験

第15回：映画通し視聴と最終リフレクションペーパー課題（質問紙調査・自由記述）

(2) 第２回～第13回の授業の流れ

①ミニテスト（前時に扱った重点文法事項に関する内容・テキスト付録の例文集より出題）

②本時の視聴場面に関する Vocabulary，Expressions，Listen Up の各パートの解説

③１回目の視聴後に場面の内容確認の TF 問題・答え合わせ

④本時の視聴場面から一部抽出された部分の Dictation 問題・答え合わせ

⑤２回の視聴後，本時の場面の Summary 問題・答え合わせ
⑥本時の重点 Grammar の解説・問題演習・答え合わせ
⑦本時の場面に関するグループでの Discussion
（時間によっては，自身の考えをリフレクションペーパーに記述し，提出することもある。）
⑧授業後，復習とリフレクションペーパー課題提出

(3)「個別最適な学び」への動機づけ促進のためのポイント

「個別最適な学び」への動機づけ促進のための５つのポイントについて概説する。

①教材として映画の活用
②ミニテストおよびそのフィードバックの Google Classroom での実施
③自己の学び・質問等を自由記述のリアクションペーパー課題
④個々のリアクションペーパーへのコメントのフィードバック
⑤高評価リアクションペーパーの共有

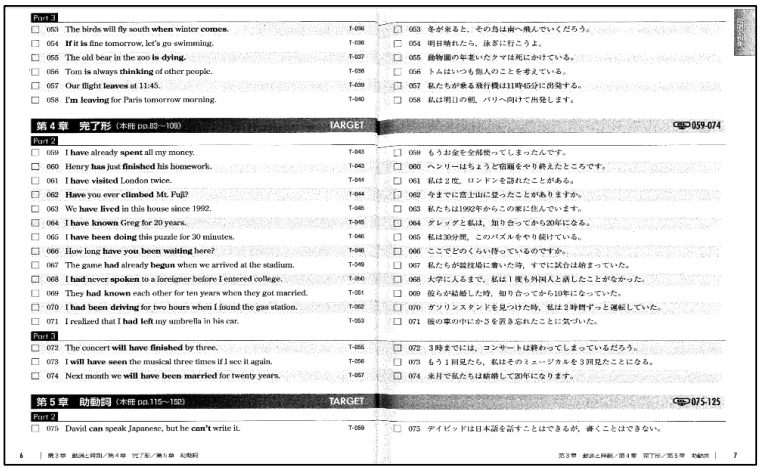
①教材として映画の活用

初回ガイダンスで学習の見通しを提示した。図５は，ガイダンスで活用した授業スライドである。本授業では，映画を活用して英文法を学ぶという点が動機づけを促進すると考えた。事前調査では，英語の映画視聴で「よく観る」と回答した学生が20％に満たない実態が明らかになった。この点において，英語の映画の「見方」や映画を活用した「学び方」を，授業を通して体験することで，個別での学修や生涯学習につなげることができるのではないかと考えた。

図５　初回授業で示したスライド

②ミニテストおよびそのフィードバックの Google Classroom での実施

授業では毎回，前時の重点学習文法事項に関して，文法テキスト（川崎他，2017）の付録の


Part 3
053 The birds will fly south when winter comes. T-036
054 If it is fine tomorrow, let's go swimming. T-037
055 The old bear in the zoo is dying. T-037
056 Tom is always thinking of other people. T-038
057 Our flight leaves at 11:45. T-039
058 I'm leaving for Paris tomorrow morning. T-040

053 冬が来ると，その鳥は南へ飛んでいくだろう。
054 明日晴れたら，泳ぎに行こうよ。
055 動物園の年老いたクマは死にかけている。
056 トムはいつも他人のことを考えている。
057 私たちが乗る飛行機は11時45分に出発する。
058 私は明日の朝，パリへ向けて出発します。

第4章　完了形（本冊 pp.83〜109）　TARGET　CD 059-074

Part 2
059 I have already spent all my money. T-043
060 Henry has just finished his homework. T-043
061 I have visited London twice. T-044
062 Have you ever climbed Mt. Fuji? T-044
063 We have lived in this house since 1992. T-045
064 I have known Greg for 20 years. T-045
065 I have been doing this puzzle for 30 minutes. T-046
066 How long have you been waiting here? T-046
067 The game had already begun when we arrived at the stadium. T-049
068 I had never spoken to a foreigner before I entered college. T-050
069 They had known each other for ten years when they got married. T-051
070 I had been driving for two hours when I found the gas station. T-052
071 I realized that I had left my umbrella in his car. T-053

059 もうお金を全部使ってしまったんです。
060 ヘンリーはちょうど宿題をやり終えたところです。
061 私は２度，ロンドンを訪れたことがある。
062 今までに富士山に登ったことがありますか。
063 私たちは1992年からこの家に住んでいます。
064 グレッグと私は，知り合ってから20年になる。
065 私は30分間，このパズルをやり続けている。
066 ここでどのくらい待っているのですか。
067 私たちが競技場に着いた時，すでに試合は始まっていた。
068 大学に入るまで，私は１度も外国人と話したことがなかった。
069 彼らが結婚した時，知り合ってから10年になっていた。
070 ガソリンスタンドを見つけた時，私は２時間ずっと運転していた。
071 彼の車の中に かさを置き忘れたことに気づいた。

Part 3
072 The concert will have finished by three. T-055
073 I will have seen the musical three times if I see it again. T-056
074 Next month we will have been married for twenty years. T-057

072 ３時までには，コンサートは終わってしまっているだろう。
073 もう１回見たら，私はそのミュージカルを３回見たことになる。
074 来月で私たちは結婚して20年になります。

第5章　助動詞（本冊 pp.115〜132）　TARGET　CD 075-125

Part 2
075 David can speak Japanese, but he can't write it. T-059

075 デイビッドは日本語を話すことはできるが，書くことはできない。

図６　ミニテストの範囲となる例文集

例文集（図６）からミニテスト（図７）を実施した。継続的な学修の習慣づけや学修成果を可視化しやすいミニテストを実施することも個別最適な学びの成果を可視化し，動機づけを向上させるきっかけとなると考えた。

また，Google Formsを活用することで，記述問題を除いては自動採点ができるため，学生が映画を視聴している際に，記述部分を教師が採点することで，授業内に採点結果をフィードバック（図８）できるという利点がある。この即時性は学生からも好評であった。

表１は，ミニテストの平均点と中央値の結果である。得点率の推移を見てみると，初めの数回と比較して，中盤から終盤にかけては，結果が向上し，安定をほぼ維持しているのがわかる。

図７　Google Forms 活用のミニテスト

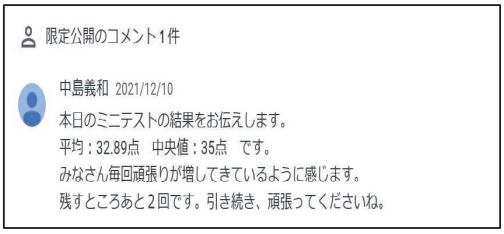


図８　ミニテスト結果のフィードバック

表１　ミニテスト平均点・得点率推移

回	範囲	平均点（点）	配点（点）	得点率（%）
1	分詞	16.7	30	55.6
2	態	20.8	30	69.3
3	助動詞	20.6	30	68.6
4	仮定法	18.0	30	60.0
5	進行形	26.4	30	88.1
6	関係詞	25.7	30	85.7
7	完了形・比較①	34.2	40	85.6
8	比較②	25.2	30	84.0
9	不定詞①	28.2	30	93.9
10	不定詞②・動名詞	35.1	40	87.7
11	動名詞と不定詞	20.5	30	68.2
12	否定	32.7	40	81.8

③自己の学び・質問等を自由記述のリアクションペーパー課題

学生は授業後には毎回リフレクションペーパーを提出することになっている。内容は，自分の学びの整理（図９）や質問（図10），感想等，多様である。このリアクションペーパーこそが個別最適な学びを具現化する重要な課題であると考える。

A）学びの整理

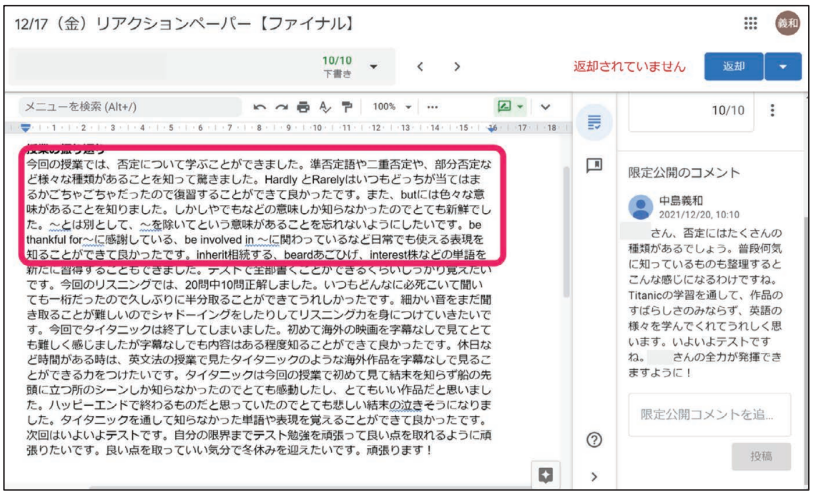


図９　リフレクションペーパーの例①「学びの整理」

B）質問

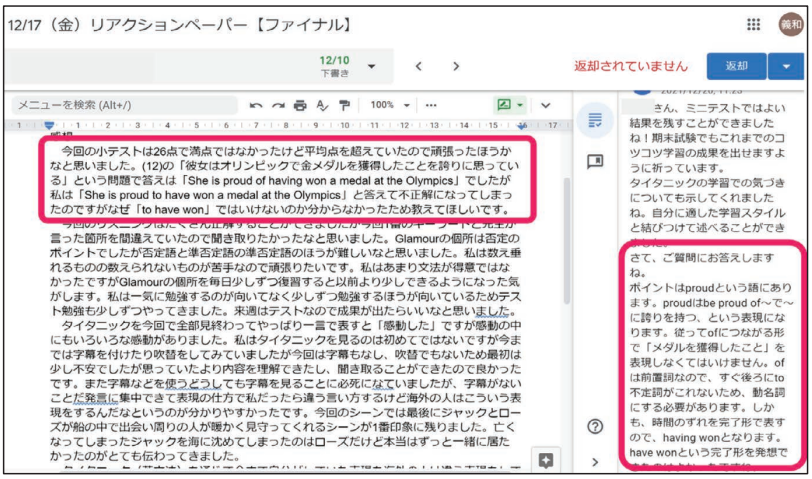


図10　リフレクションペーパーの例②「質問」

④個々のリアクションペーパーへのコメントのフィードバック

学生によって提出されたリアクションペーパーには目を通して，コメントをつけ返却をした（図11）。このコメントが楽しみだという学生もおり，個に応じた対応が動機づけを高める一つの要因であると考えられる。個別最適な学びの創出においては，自己の学びが自己内のみに閉じないようにする工夫も必要であり，その意味においてフィードバックが必ず得られるという

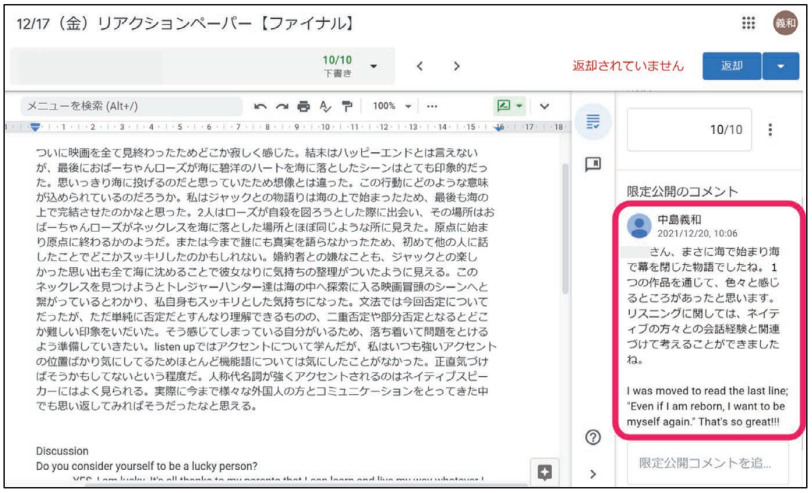


図11　リフレクションペーパーにコメントをつけてフィードバック

のは個の学びを深めることに貢献した可能性が高いと言える。

⑤高評価リアクションペーパーの共有

評価の高いリアクションペーパーはGoogle Classroomを通して受講者全員に共有することで，自身のリアクションペーパーへの取組を振り返ったり，他者の取組からの学びを得たりすることを期待した（図12）。

リフレクションペーパーにおいて評価が高いものは，場面の状況分析・考察，自分の感想，生活経験との関連づけ，一般化と自分の意見，各場面のタイトルと関連づけた内容の考察，文法事項の整理，英語での自己表現等が充実しているという特徴があった。図13はそのような点において評価が高く，受講者全員に共有されたペーパーの例である。

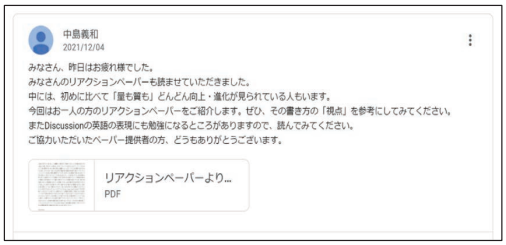


図12　評価の高いリフレクションペーパーの共有

2021/12/3（金）「英文法Ⅱ」リアクションペーパーより

今回は UNIT12 にあたるシーンを鑑賞した。船内はとても混乱しており、人々の行動は自分の人生の終わりを感じて逃げることを諦める、またはどうにかしてでも逃げようとする 2 パターンに分かれていた。船と運命を共にする人物の行動に正直驚いたが、これも一つの人生の選択であるため必ずしも悲しいものではないと思った。私自身その場面を見た瞬間は可哀想だと感じていたが、今こうして入力していると彼らの選択は尊重するべきであり、自分の人生は最後まで船と共にあるという考えも悪くないと思った。むしろかっこよく見える。私はこのシーンを見た後、セウォル号沈没事件を思い出した。当時多くのメディアが報道し、日本でも注目された事件となった。この時船長は逃れようと乗客よりも早く脱出した。そして船内で流れるアナウンスと実際の状況にズレが生じ、助かる命も助からなかった。緊急時に人はどうしても混乱してしまい、自分が助かる方法のみ考えてしまいがちである。しかし自分のために動くのか、それとも誰かのために動くのかが運命を分けるように見える。特に船長についてはこの責任がとても大きい。他人と自分の命のどちらを優先すべきなのだろうか。とても考えさせられた。そしてユニットのタイトルでは two tragic bullets とあるが、それが何を指しているのかがとにかく気になった。直訳すると 2 つの悲劇的な銃弾という意味になる。今日見たシーンの中では銃が使用されたのもありそれらを指しているのかとは思っているのだが、本当にそれらなのかとても知りたい。私の考察としては、銃はこれから起こる悲劇を暗示しているように思えた。確かに人が撃たれたり、または自殺する者がいたりといきなりショッキングなシーンがあった。これはどちらかというと本格的な悲劇の始まりの合図ではないだろうか。一方の文法では動名詞についてだった。どちらかというとシンプルな文法ではあるが、主語・補語・目的語として使うことができるため問題を解く際には前後の形を注目しながらあてはめていきたい。

Discussion
Having a child without being married used to be a social taboo. Is it still a social taboo?
No, it isn't. I heard Elley(from Sandaime J Soul Brother) has a baby with a partner and it was reported positively on social media. From here, this seems not to be taboo and I feel our society has become flexible little by little. We are given some choices and it is recognized officially. I do not know much about other cases in foreign countries, but some counties already allow LGBTQ or minority groups to marry formally. If it is possible, having babies without being unmarried is fine, I think… This also connects to the ideal way to marriage. In the past, marriage was our dream and it is kind of a symbol of happiness, but it has changed and some people tend to be unmarried because of jobs and their lifestyles. So, this is a complicated problem, I think….

図13　高評価のリフレクションペーパー例

4．方　　法

(1) 対象

私立大学生「英文法Ⅱ」受講者27名（主に１年生，２年生以上３名）に，後期全15回で，前述の通り授業を実施。

(2) 分析対象

以下の対象に分析を行い，学生の学びへの動機づけの促進効果を検証する。分析の対象としたのは24名分のリアクションペーパー，リフレクションペーパーである。

①授業時間後に取り組むリアクションペーパー課題（以下の５回分）

○第１回：初回でガイダンスのみ実施
○第２回：映画を視聴した初回
○第８回：およそ中間回
○第12回：第11回授業終了後，高評価リアクションペーパーを全員に共有した直後
○第13回：映画を視聴した最終回
②授業最終回に実施したリフレクションペーパー課題

(3) 分析方法

①分析対象５回分のリアクションペーパー
○文字数の変化の検証・比較
○コメント内容のコーディングにより抽出したコード数のカウント
○コメント内容のコーディングからカテゴリーの生成
②授業最終回に実施したリフレクションペーパー
○質問紙調査の数値の検証
○自由記述コメントから映画活用の意義の抽出

5. 結 果 と 考 察

各対象を分析した結果および考察を示す。なお，考察の方向性は以下の通りである。
○毎回のリアクションペーパーからは，質・量両面での変容を見とる。
○最終回の質問紙調査数値からは，教師の工夫点・意識への満足度をつかむ。
○最終回リフレクションペーパー自由記述コメントから抽出されるキーワードからは，教師が工夫として実践したねらいが学生の期待に沿うものとなったかをつかむ。

(1) 分析対象５回分のリアクションペーパーの記述

①リアクションペーパーの文字数の変化・増加率（表２）

分析対象のリアクションペーパーからは，質・量両面での変容を見とることができた。量的には，表２に見られる平均文字数の増加からは，「個別最適な学び」の成果を表現したくなる欲求の高まりや話題の拡大が示唆される。特に，第11回終了後に共有した評価の高いリアクションペーパーは，学生のリアクションペーパー取組への動機づけの高まりを促進したようであった。

表２　リアクションペーパーの平均文字数・増加率

授業回	抽出した理由	平均文字数（字）
１回目	初回でガイダンスのみ実施	148.87
２回目	映画を視聴した初回	225.10
８回目	およそ中間回	307.88
12回目	第11回終了後に評価の高いリアクションシートを本人の了解を得て全員に共有した直後	462.65
13回目	映画を視聴した最終回	541.46
	８回目と12回目を比較した増加率（％）	153.19
	２回目と最終回を比較した増加率（％）	279.29
	初回と最終回を比較した増加率（％）	521.68

②コメント内容のコーディング・カテゴリー化の結果（表３・図14）

質的には，表３のコード数の変化からわかるように，記述の表現内容に多様化の傾向が見ら

表３　コメント内容のコーディング結果

上位項目		下位項目		１回目	２回目	８回目	12回目	13回目
A	自己の学習状況への客観的な評価	1	現状把握	10	8	4	0	1
		2	省察	6	3	14	19	16
		3	達成評価	0	3	8	0	4
		4	課題	1	6	5	0	1
		5	成長実感	0	0	1	3	5
		6	価値づけ	0	0	0	0	1
B	学習に誘発された自己（内面）の表出	7	感想	10	14	11	18	19
		8	気づき	1	2	2	3	3
		9	質問	2	1	2	2	3
		10	疑問	0	1	2	0	1
		11	要望	1	0	0	0	0
		12	自己経験との結びつけ	0	0	0	1	2
		13	意見	0	0	0	1	1
C	学習事項に関する内容	14	学びの整理	0	0	7	9	5
		15	新たな学び	0	2	8	9	10
		16	場面分析	0	0	2	4	6
		17	自己学習	0	0	2	2	3
		18	自己の英語学習方法	0	0	1	0	1
		19	学びの活用	0	0	0	0	2
D	学習意欲の表出	20	抱負	19	14	20	20	18
		21	動機づけ	0	0	1	1	3
各回で抽出されたコードの平均数				2.17	2.57	3.75	4.00	4.38
各回で確認されたコード分布数				8	10	16	13	20

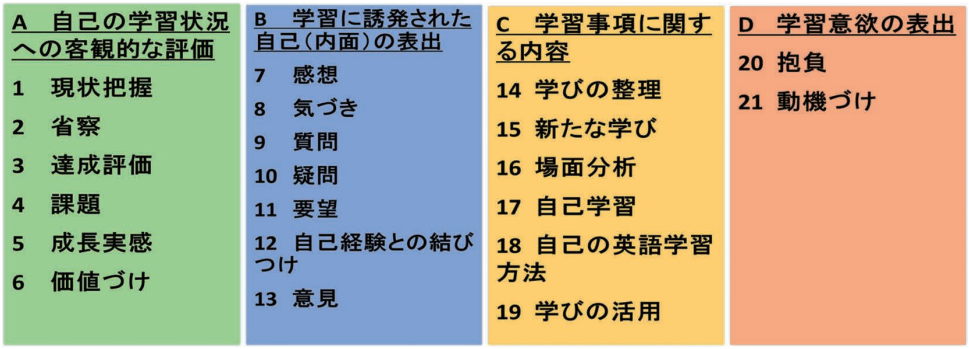


図14　４つのカテゴリー（上位項目），21のコード（下位項目）

れた。これは，個々の学習の広がりと深まりが反映されたもの，つまり「個別最適な学び」の充実が示唆される。リアクションペーパー課題への取組の初期は，自己の英語力の現状把握，感想，抱負に関する記述が大半であったが，後半になると，自らのミニテスト結果やリスニングの出来具合を省察・分析する記述や，新たな学びや自己の学びを整理・活用するものも見られるようになった。このことから，学生自身が個の学びの深まりや価値を見出すことができるようになったと言えよう。

(2) 授業最終回の課題であるリフレクションペーパーの結果

①質問紙調査部分の実践への評価平均値結果（表４）

表４は，筆者による学生の学びへの動機づけを高めるための実践についての５点満点評価の平均値結果である。概ね肯定的な評価が得られており，効果のある課題として機能したと考えられる。しかし，学生の中には，設定したテキストやミニテストの出題に関して，自己の学力との差に苦を感じた者もいたようであった。

表４　質問紙調査（学びへの動機づけを高める実践について）の評価平均値結果（５点満点）

1	授業で活用したテキストの難易度や取り組みやすさ	3.85
2	授業の流れ（パターン）の取り組みやすさ	4.22
3	映画作品を英語学習に活用したことの意義・価値	4.44
4	映画作品を活用したことによる動機づけ	4.41
5	リアクションペーパーへのフィードバックによる動機づけ	4.19
6	基本例文を学習するミニテストの意義・価値	4.11

②自由記述から抽出した授業への映画活用の意義

以下に学生が感じた授業での映画活用の意義を示す。

〈動機づけとしての意義に関する記述〉
・楽しんで英文法を学ぶことができ，学習への動機づけとなる
・楽しみながら学べるので，学習を長く続けたり集中して取り組むきっかけとなる
・授業外でも英語で映画を見るきっかけとなる
・自然と意欲的に学習に取り組むきっかけとなる
・映像を観て理解できるので，理解できた自分への自信につながる
・英語表現や異文化，考え方に理解を深める，興味を持つきっかけとなる
〈英語力の向上への意義に関する記述〉
・自然と英文法が身につくきっかけを得ることができる
・生きた英語・自然な英語・リアルな英語の表現や構造を学ぶことができる
・実際の英語使用場面（表情やリアクション）を見て，文法理解が深まる
・英文法だけでなく，発音やリアクションなども学ぶことができる
・４技能を向上させることができる
・映画で使われている文法や表現を活用して，discussion をすることができる

これらはいずれも筆者の意図と合致している。具体的には，「動機づけ」「きっかけ」「意欲的」「自信」といったキーワードからは，学生の動機づけに少なからず貢献したことが考えられ，動機づけとしての意義が見出される。また，「自然と身につく」「生きた／自然な／リアルな英語」「実際の英語使用場面」「実際に使われた表現の活用」「発音」「リアクション（表情）」「４技能の向上」といった記述からは，英語力向上への意義が見出される。授業と課題を通して，４技能の学習を網羅したことで，英語の「真正性のある（オーセンティックな）学び」や「教科の本質的な学び」を学生が感じられた可能性も示唆される。

(3) 最終リフレクションにおける授業全体に関する記述

最終リフレクションペーパーでの授業全体に関する記述から５名分を抽出し，考察する。

①Ａさんの記述

私はこの授業を通して英文法に対する意識が変わった。この授業を受けるまでは、英文法に対してとてもネガティブな感情を抱いており、これまで通りやったところで苦手意識は消えないと思っていた。正直なところこの授業の前半はとても憂鬱に思っていて、朝起きる度にテストという言葉が頭をよぎりストレスに感じていた。しかし回数を重ねる度に自分の中で苦手意識が少しずつ薄れ、英文法を学ぶ目的やその大切さがわかってきた。家で文法書を定期的に開いて学習する自分に驚くと同時に、理解もより深まった。

もう一つ変わった点としてはリスニング力である。毎回の授業で少しずつ映画のシーンを見たり、dictationを行うことでより高まった。字幕なしで映画を見るのは初めてで不安だったが、耳が慣れて何をいっているのかわかるようになった。毎回の時間はわずかだが、それがなければリスニング力は伸びなかったと思う。そして動画などを見る際に字幕に頼ることが少なくなった。

自分の成長を実感できてとても嬉しかった。改めて英語学習は何通りもあり、自分に合った方法を見つけることが大切であると感じた。今回のタイタニックでは英語だけでなく、社会の分野についても学ぶことができた。一度にあらゆる分野やスキルをカバーすることが可能で、効果的である。これから私自身がどのように英語学習と向き合っていくのかを足場かけしてくれる授業だった。

A さんの記述からは，英文法への意識の変化（ネガティブ・ストレスだったものから，自ら文法書を開くという意欲的・主体的な姿勢への変化），目的や意義の理解，リスニング力の伸びや自らの成長実感（学びに向かう姿勢の向上），英語のみならず社会的な事象の学びから英語の学びの多様性と効果の実感，本授業が英語学習の足場かけ的存在となったことが読み取れる。

② B さんの記述

この授業は再履修で、前回の先生も英文法で映画を同じように活用しており、アラジンの映画を活用しながら授業をした。しかしそのときは、なぜこんな授業をしているのかよくわからなかった。

この授業では映画を使うというだけでなく、毎日のリアクションペーパーや小テストが私にはとても価値があったと思う。

特に授業前の小テストは、回を重ねるごとに実施することの意味を自分で見出すことができ、こうやって英語は勉強していくんだということや、このようにすると身に付きやすいんだという発見を身をもって感じることができた。毎回、平均値と中央値を出してくださるので、自分が周りと比べ遅れていることや、周りのみんなが一生懸命頑張っていることも分かり、自分ももっと努力しないといけないと思うきっかけにもなった。

リアクションペーパーも毎回提出するだけでなく、ポジティブなコメントをくださったので、それが授業のやる気につながっていたと思います。

また、授業で使った文法を活用して、自分で文を作ってみることや、クラスメートとディスカッションをすることが、自分で考えるということに繋がり、そこでも大きく成長できたと思います。

しかし、振り返るともっと努力できたんじゃないかとも思います。春休みは自分が成長できるようにする時間にできるよう、有意義に過ごしたいと思いました。また、この授業で学んだことを他の授業でもたくさん活用していこうと思います。

B さんの記述からは，再履修での映画活用授業への意識の変化・意味の理解，リアクションペーパーとミニテストの価値実感，学習方法や習得の実感，ミニテスト結果の共有やリアクションペーパーへの教員のコメントによる動機づけ，学習事項の活用，英語学習への意欲が読み取れる。

③ C さんの記述

私はこれまで英文法の授業を受けてきて、中学生、高校生の頃にくらべると断然に英語の力が身についてきたのではないかと感じました。大学生になる前までも英文法で扱われていたことを学んだことはありましたが、しっかりと理解をしきれていませんでした。

特に私は関係詞が苦手で、whom、whoseなどの使い分けが理解できていませんでした。しかし、英文法の授業で関係詞を学んだ時、きちんと理解することが出来て、自分自身も感動しました。また、私が今まで理解しきれていなかった文法などを、英文法を通して少しずつ理解できていったのは、ミニテストやリアクションペーパーの存在も大きかったのではないかと感じました。

ミニテストで毎週少しずつ色んな文法の使い方をエッセンシャルで学んでいくうえで、この文法はこんな使い方もできるんだという新たな発見をしていくことが出来ていました。

また、リアクションペーパーではその時に授業で学んだこと、またその授業でできるようになったこと、難しいなと感じたことを自分で書き出していくことにより、前回の授業ではこんなことを学んだなと次回の授業で頭で振り返ることも出来たし、また私はこの授業でこれが理解できるようになったんだということが文章で分かるので、モチベーションにも繋がりました。そしてその中でも一番大きかったことは自分の課題点を見つけられるところでした。私の場合、ディクテーションにつまずいていたので、そのことを書いて、リスニング力が私の課題点だと見つけることが出来ました。

私はこの英文法の授業でたくさんのことを学び、知識を得ることが出来ました。半年間本当にありがとうございました。今まで学んできたことを無駄にせず、これからにきちんと活用していけたらと思います。

C さんの記述からは，英語力の獲得の実感（中高時代との比較），理解できた感動，ミニテスト・リアクションペーパーの存在意義，文法への新しい発見，リアクションペーパーへの記録の意義と価値・モチベーション（課題の発見，成長点・学び等の可視化・ポートフォリオ的役割）を読み取ることができる。

④ D さんの記述

この英文法の授業を受けることによって、変化したことが三つあります。

一つ目は、次回の授業までに予習することをしてきていなかった私が、映画での授業だったため、次の映画の内容が気になって予習を自らするようになったことです。課題に仕方なく取り組むだけだったのが、自然に取り組めるようになれたのがとてもうれしかったです。

そして、リアクションペーパーという課題があることで、全然復習をしなかった自分が必ず復習するようになり、何が苦手なのかを知ることができ、自分の勉強すべき部分を見つけることができたので、とても勉強になったなと思いました。

さらに、毎回ミニテストがあったので、本当に勉強する時間が増えたなと思いました。平均点やみんなの間違えた部分の解説などをしてくださっていたので、より頑張ろうと思えたのでとても良かったです。

二つ目は、この授業を受けて、英語がもっとできるようになりたいと改めて思うことができました。今まではただ英語が喋れたらかっこいいなといったあいまいな理由で英語を学んでいましたが、今回英語の映画を見ることで、もっと沢山ほかの英語の映画も理解できるようになりたいと思い、英語を学ぶことへの楽しさや、目的ができたのでとても嬉しいです。

三つ目は、教科書だけでは学べない外国人の会話や表現の仕方を学べたことです。最初はとても早く全然理解できなかったけど、毎回聞くことで慣れて、少しずつ聞き取れるようになったことがとてもうれしかったです。

これらのことから、私はこの授業全体を通して、たくさんの気づきがあって、英語学習への楽しさを学ぶことができたと思います。一年間本当にありがとうございました。

D さんの記述からは，自ら予習や復習に取り組むようになった主体性や自律性（映画が動機づけ），意欲（リアクションペーパーが動機づけ），リアクションペーパーで自分の苦手や課題の可視化，ミニテストの平均点や誤答の解説の共有による動機づけ，英語学習の楽しさ実感と目的理解（映画が題材），生の自然な英語表現・会話，多くの気づきを見出すことができる。

⑤ E さんの記述

正直、私は英文法の授業が一番苦手でした。たくさん文章がどの文構造に値するかもわからない段階でした。

今回の授業でミニテストがあった際に最初のテストがびっくりするほど低い点数でこれはかなり追い込んでやらないといけないなと思い英文法授業のある前日に必ず勉強をするようにしました。しかし、次に授業でもなかなかいい点数が上がらず悩みました。私は、勉強方法に目を向けやり方を変える必要があると思いました。最初は夜の勉強で終わってしまっていましたが、朝復習すると記憶力につながることを調べて分かったため、朝5時に起きて一時間半ほど勉強しました。するとかなり点数があがりこんなにわかりやすく点が伸びたこと自体生まれて初めての経験だったのでとてもうれしかったです。

授業のノートも毎回の先生がこの単語も一緒に覚えておくといいですよというものや自分が大事だなと思うものを必ず書き留め、苦手な英文法だからこそ自分なりに先生が出しているスクリーンをノートに書き替えてみたりなどしました。前期はノートにメモをするという形ではなかったため、復習する際にみるものがテキストのみになってしまったのがよくなかったと自分自身反省したのでノートも頑張りました。そのため、英文法の授業ではない授業や英検2級の勉強でも使用することができました。これはとても自分にとってプラスになったなと思います。一つの努力が様々な場面でこんなにも役に立つんだと肌で感じとても感動しました。

しかし、授業中のディスカッションで私のグループにいらっしゃった先輩や同級生が私の知らない単語や複雑な文章を使って話をしていてとてもすごいと思った半面、私はまだまだだと思いました。今回の最終期末テストでも返却された際かなり悪い点数が返却されまだまだだなとかなり落ち込みました。英文法は苦手意識はありましたが少しは克服できたかなと思っていたからです。ですが、このテストもこれで終わりにするのは違うと考え、もう一度テキストとノートを見て生まれて初めて本気で復習しました。復習する分、力になっているなと感じましたが、それと並行して悔しいという思いがでてきました。少しでも早くみんなに追いつくために自分のでできることの100%を出していかないといけないと思いました。こんな考え方を持つことができたのは初めてで、口先だけということは何度かあり、今回ちゃんとそれを実践できている自分に少しずつ自信を持つこともできました。

どれくらいできたらいいという正解は英語を学ぶ上ではないと思いますし、やればやるだけ力も付いてくるのでずっとずっとこれを続けていくにはどうすることがいいのかと今考えています。ただ続けていると私の性格的にはいつかパタッと途切れてしまうのではという不安があります。なので英語触れる機会を増やしていこうと考えています。私は洋画や洋楽が本当に大好きなのでそれを活かせばいいのではと思います。今回の授業のタイタニックのようにここでこの単語が使われていると発見できればそれを記憶する際にも力も付くと思いますし、楽しく続けられるのではないかなと思います。そうすればもっと成長することができ文法に苦手意識を置くことがなくなってくるのではないかと考えます。今回のこの振り返るという作業によりこんなにも自分を見つめなおすことができ、プラスに

なっていると実感することができました。なかなかこのような機会をもうけてくださる授業は少ないのでとてもありがたかったなと思います。これはこのような時間がなくてもできるようになりたいなと思います。

Ｅさんの記述からは，ミニテスト取組の工夫と効果（学習方法の見直し・改善）の実感を通して，英語での初めての成功体験を獲得できたことやノートテイキングの工夫と効果が他場面・授業での活用での有用性につながり感動したこと，クラスメイトの存在による動機づけ（ディスカッション交流），初めての自発的な期末試験のやり直しを通して，考え方の変化と実践している自分への自信が感じられたこと，洋画や音楽を学習継続に活用する意義，振り返る学習の意義，自己の成長の捉え・見つめ直しが見出される。

以上の５名の学生のリフレクションも含めた自由記述からは，本授業実践のねらいとなるキーワードや記述が多く抽出された。例えば，英文法の授業での映画の活用，ミニテスト，リアクションペーパー，フィードバックコメント，テスト結果共有等である。これらより，本実践において学生の「個別最適な学び」への動機づけを促進する実践が機能し，効果を生んだ可能性が示唆された。

6. 成 果 と 課 題

本実践における成果と今後の課題を示し，本研究の総括とする。

(1) 成果

本実践では，学生たちが現在も含め将来的に，生涯にわたって自律的な学習（修）者として学び続けることを期待し，そのために必要な資質・能力の育成を企図した課題を大学英文法の授業を通して提供することを試みた。それは，生涯学習として英語を学び続けること，あるいは他の外国語を学ぶことに挑戦することへと発展・転用される資質・能力育成の種まきであるとも考えている。生涯学習は自身の興味・関心に合わせ，自ら主体的に学びを切り拓き，その学びを継続して深めていく過程であると言えよう。その過程を充実させるためには，個の学び，本研究の趣旨に従えば「個別最適な学び」は切っても切り離せない，必須となる考え方であり，実践である。こうして，その「個別最適な学び」の創出に焦点を当て，その学びへの動機づけの促進について検討できたことは意義深い。以下に，学生が英文法の授業を通して，「個別最適な学び」への動機づけを高めるために試みた５つの実践に対応する形で成果を述べる。

①題材として映画を活用

題材・教材として英語の映画を活用したことは，学生を英語の世界や英語の映画の世界に誘った，扉を開いたという点において成果があったと言える。学生の実態を見ると，英語の映画は遠いところにある存在であったが，本授業を通して，「初めて一本の英語の映画を観た」や「自分でも英語の映画を吹き替えなしで観るようになった」「英語の音楽も聴くようになった」など，外国語学習における「個別最適な学び」の新たなオプションを学生は獲得したことになる。

②ミニテストおよびそのフィードバックの Google Classroom での実施

「個別最適な学び」はともすると内に閉じる可能性もある。しかし，その学びの成果を確認する意味でのミニテスト，定期的に実施されるペースメーカー的存在としてのミニテストは，「個別最適な学び」をより意味あるものとして，その学びの過程に意味づけをする一つのツールとなりうる。また，授業内での即時フィードバックは，記憶が新しいうちにか確認をすることができた点において，間違った部分の印象付けに貢献したようであった。さらに，毎回の平均点や中央値をコメントとともに共有することで，他者の取組から刺激を受けた学生も多くいた。この点においても，「個別最適な学び」への価値づけができたものと考える。

③自己の学び・質問等を自由記述のリアクションペーパー課題

このリアクションペーパーはまさに「個別最適な学び」の極みのような存在であると考える。自分の裁量で記述する内容も分量も決め，自由に作成することができる課題である。この課題をうまく活用した学生は，自己の学びを広げ深めていった。また，このペーパーには，学生の授業内容へのリアクションの視点が多様に現れ，そこには自らが確立した学修方法させ反映させているものも見出された。これらの意味において，本課題の価値は大きく，意義のあるものであったと考える。

④個々のリアクションペーパーへのコメントのフィードバック

リアクションペーパーは，「個別最適な学び」を創出する学生と，ある種の学びの伴走者的存在である教員との対話のステージであると考えられる。その意味において，教師によるコメント返却は学生が投げてきたボールを取って投げる営みであり，このキャッチボールを楽しんでくれたことは意義深い。「個別最適な学び」を充実させる一つのアクセントやエッセンスになった可能性が示唆される。

⑤高評価リアクションペーパーの共有

評価が高いリアクションペーパーの共有により，他者の成果物にふれることで，刺激を受け，学びを得て，自己の取組にも反映させる様子が見て取れた。事実として，共有後のリアクションペーパーにおいて質的・量的両面において向上が見られたことから，この共有という行為には「個別最適な学び」を駆動させる大きな意義があるものと考えられる。

この他にも，筆者は，動機づけを高めるべく，ポイントを提示しながらほめたり，学生に肯定的評価や意味付けや価値づけを与えたりすることを意識的に行ってきた。これらについての検証は今後の課題としたい。

(2) 課題

今後検討すべき課題として，授業で扱う映画題材のテーマやジャンルの適切性がある。このテーマやジャンルが学生の英語学習への動機づけをいかに左右するのかについても検証していきたい。さらに，第二言語習得のプロセスに適った流れをより意識した授業コンテンツの開発とその効果測定等に尽力し，英文法への苦手意識という壁を良い意味で壊していけるような授業や課題を創っていきたい。

文　　献

角山照彦・Simon Capper.（2016）*Learn English with TITANIC*. 成美堂.
川崎芳人他（2017）『総合英語 Evergreen』，いいずな書店.
白井恭弘（2012）『英語教師のための第二言語習得入門』p. 24，大修館書店.
中央教育審議会（2021a）『「令和の日本型学校教育」の構築を目指して～全ての子供たちの可能性を引き出す，個別最適な学びと，協働的な学びの実現～（答申）』
中央教育審議会（2021b）『「令和の日本型学校教育」の構築を目指して～全ての子供たちの可能性を引き出す，個別最適な学びと，協働的な学びの実現～（答申）』【概要】スライド 2
中島義和（2022）「学生の学びへの動機づけを促進する教師の工夫―英文法の授業における試み―」『日本教育実践学会　第25回研究大会　論文集』pp. 34–35
溝上慎一（2021）「主体的・対話的で深い学び（アクティブ・ラーニング）を基礎にして『個別最適な学び』『協働的な学び』へ」『教育最前線　第 8 号』pp. 2–5，三省堂.
文部科学省初等中等教育局教育課程課（2021）「学習指導要領の趣旨の実現に向けた個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実に関する参考資料（令和 3 年 3 月版）」